

豊中市胃がん検診(胃内視鏡検査)同意書

【胃がん検診の目的と方法】

胃がん検診は、症状がない時期にできるだけ早く胃がんを見つけ、早く治療する目的で実施します。すでに胃の治療中で、医師から定期的な内視鏡検査が必要と言われている方は、検査の対象となりません。

検査方法としては、バリウムを用いるエックス線検査と内視鏡検査があり、いずれもその効果が証明されています。裏面に、それぞれのメリット・デメリットを示しています。

結果判定の方法としては、検査医の一次読影後、別の医師が二次読影を行い、その後検査医が総合判定を受検者に通知いたします。

なお、今回の検診結果等を含む情報は、がん検診の精度管理及び統計処理又は個人が特定できない形での学術研究の目的に利用する場合があります。

【内視鏡検査の方法】

口または鼻から内視鏡を挿入し、主に胃を観察し病気を探します。また、色素を散布して病変を見つけやすくすることがあります。

異常がある場合には、病変の一部を取り出し、詳しく検査することができますが、保険診療で行いますので別途費用が必要です。

また、検査により粘膜に傷ができる可能性がありますので、検査後当日の食事は軟らかい消化の良いものを食べてください。過激な運動、長湯、旅行などは避けてください。

【偶発症】

偶発症が発生する頻度は、約1万件に1件(0.01%)です。また、極めてまれですが、手術等により輸血が必要となる場合や死亡に至る可能性があります。

内視鏡検査では、以下の偶発症が起きる可能性があります。

- ①胃内視鏡により粘膜に傷がつくことや、出血、穿孔(穴があくこと)
- ②生検(病変の一部を取り出し、詳しく検査すること)による出血、穿孔
- ③薬剤によるアレルギー(呼吸困難、血圧低下など)
- ④検査前からあった疾患の悪化(症状の出ていなかった疾患も含む)

なお、当施設では偶発症の防止のために十分な注意を払うとともに、偶発症が発生した場合には最善の対応をいたします。なお、偶発症にかかる治療費は保険診療になります。

年 月 日 説明医師名

上記の事項について、説明を受け、十分に理解しましたので、その実施に同意します。

年 月 日

受診者署名

	エックス線検査	内視鏡検査
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ○1～3年以内の検査実施の間隔で死亡率減少効果を示す相応の証拠があり、市町村が実施する検診として勧められています。 ○検査の感度(がんがある人を正しく診断できる精度)は、おおむね 85%程度です。 ○胃がんのほかに、胃潰瘍やポリープも発見でき、治療に結びつけられます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2～3年以内の検査実施の間隔で死亡率減少効果を示す相応の証拠があり、市町村が実施する検診として勧められています。 ○カメラで観察するため、小さな病変部だけでなく、出血なども詳細に観察することができます。 ○胃だけでなく、十二指腸や食道の様子も観察することができます。 ○異常が見つければ、病変の一部を取り出し、詳しく検査することができますが、保険診療で行いますので別途費用が必要です。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ○エックス線による放射線の被曝があります。直接撮影と間接撮影で差はありますが、適切な間隔で検査を行えば、自然のなかで浴びる放射線と同程度なので、健康に大きな影響を及ぼすことはありません。 ○バリウムの誤飲や便秘などの偶発症が起きることがあります。 ○「過去に硫酸バリウム製剤に対して、アレルギー症状等の症状があらわれたことがある方」や「消化器官の閉塞がある方など」は、バリウムによって副作用が起こる場合があるので、受診はできません。 	<ul style="list-style-type: none"> ○局所麻酔薬や鎮痙剤を使うので、薬に対するアレルギーのある人は医師に必ず相談してください。また、これらの薬による副作用もあります。 ○確率的にはきわめて低いですが、内視鏡を入れることで感染したり、胃や食道を傷つけて出血したり、穴を開けてしまう「穿孔」が起きたりする偶発症の可能性があり、専門の学会の報告では約1万件に1件(0.01%)です。また、極めてまれですが、死亡に至る可能性があります。 ○「ワルファリンカリウム(ワルファリンなど)、アスピリン(バファリンなど)、シロスタゾール(プレタールなど)などの抗血栓薬を服用している方」は、生検後出血や鼻血(経鼻内視鏡の場合)を増加させる危険があります。

*どのように優れた検査でも、100パーセントの精度ではありません。がんが発生した時点から一定の大きさになるまで検査で発見することはできません。
 また、がんそのものが見つけにくい形であったり、見つけにくい場所にできたりする場合があるため、ある程度の見逃しは、起こる可能性があります。

(参考)国立がん研究センターがん対策情報センター「がん情報サービス」